

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
事業所における温室効果ガス(GHG)排出量の削減・エネルギー消費原単位の改善	データセンターのPUE (電力使用効率)改善	再生可能エネルギーの 利用拡大	サプライチェーンにおける CO ₂ 排出量削減の推進	輸送における CO ₂ 排出量削減	水使用量の削減	化学物質排出量の 抑制	廃棄物発生量の 抑制	

廃棄物発生量の抑制

富士通グループのアプローチ

富士通グループでは、廃棄物を貴重な資源として捉え、そこから資源を回収またはエネルギー源として利用する取り組みを継続しています。国内では、年々廃棄物の最終処分量は減少傾向にあるものの、新たな処分場の建設が困難であるため、残余年数に限界があるなど、廃棄物の処理を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

循環型社会形成推進基本法で定められている①発生抑制、②再使用、③再生利用、④熱回収に従って、半導体やプリント基板の製造で発生する廃酸、廃アルカリ、汚泥の発生量を削減するため、設備導入や再利用などを積極的に進めています。

また、廃棄物の処理を適正に行うために廃棄物の処理および清掃に関する法律に基づき、全社共通規格にて廃棄物処理委託基準を定めています。

2016年度の実績サマリー

第8期環境
行動計画の
目標
(2018年度末まで)

廃棄物の発生量を2012～2014年度の
平均以下に抑制する。

(25,568トン)

2016年度
実績

22,432トン

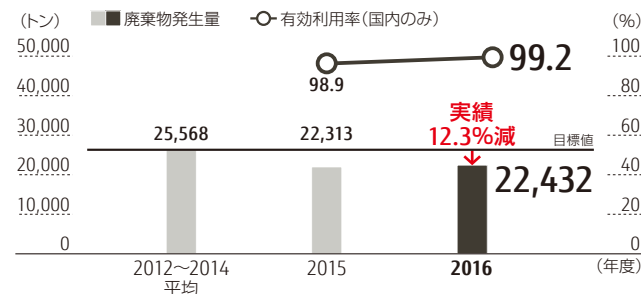
2016年度の実績・成果

社内処理化による廃棄物発生量の削減および有価物化を実施

富士通長野工場では有機更新廃液の社内処理化による削減(427トン)、三重富士通セミコンダクター株式会社ではアルカリ廃液の有価物への変更(95.6トン)などを実施しました。

こうした取り組みの結果、廃棄物発生量については、22,432トン(売上高当たりの原単位:0.50トン/億円)で目標を達成しました。

廃棄物発生量および有効利用率の推移



廃棄物発生量・有効利用量・最終処分量の内訳 (単位:トン)

廃棄物種類	廃棄物発生量	有効利用量	最終処分量
汚泥	4,449	4,333	117
廃油	1,186	1,157	29
廃酸	3,204	3,198	6
廃アルカリ	3,358	2,815	544
廃プラスチック	3,557	3,416	141
木くず	997	997	0
金属くず	735	734	1
ガラス・陶磁器くず	437	431	5
その他(注)	4,508	3,207	1,301
合計	22,432	20,288	2,144

(注) その他: 一般廃棄物、紙くず、浄化槽汚泥、燃え殻、がれき類、繊維くず、動植物性残渣、感染性廃棄物を含みます。

2016年度の主な活動報告

大型マザーガラス採用によるガラス廃棄物量の削減

富士通コンポーネント株式会社では、タッチパネルの製造工程において、線膨張率の異なるガラスと樹脂フィルムを使用することから、フィルムに歪みが発生しやすいなど複数の課題がありました。それらを解決するためにワーキンググループを立ち上げ、以下の項目について改善を進め、課題を克服しました。

- ①大型ガラスでも反りが小さくフィルムが歪まない製造ラインの構築と製造条件の確立
- ②製品の多面取りに対応した正確なフィルム貼り合わせと印刷技術の確立
- ③大型ガラス使用の新規治具製作と適用

改善活動の成果として、製品の多面取りにおける最適化を実現し、マザーガラス1枚当たりから発生する端材を抑えることが可能になりました。2014年下期から大型マザーガラスの採用を開始したところ、ガラス廃棄物発生量を3年間で従来比150トン削減することができました。

ITO(注)付きガラス廃棄物の推移 (注)ITO:酸化インジウムスズ

